

## 日本版 KABC-II の尺度構成と標準化

○ 服部 環 (法政大学)  
石隈利紀 (筑波大学)  
熊谷恵子 (筑波大学)

藤田和弘 # (九州保健福祉大学)  
青山眞二 # (北海道教育大学)  
小野純平 (法政大学)

日本版 KABC-II (Kaufman, Kaufman & 日本版 KABC-II 制作委員会, 2013) は 2 歳 6 ヶ月から 18 歳 11 ヶ月までの子どもを対象とする個別式認知能力検査である。本稿は日本版 KABC-II の尺度構成と標準化に用いたサンプルについて報告する。

### 尺度と下位検査

**(1) 日本版 KABC-II と米国版 KABC-II** 米国版 K-ABC (Kaufman & Kaufman, 1983) は認知処理能力と習得度を測定したが、改訂版である米国版 KABC-II (Kaufman & Kaufman, 2004a) は認知処理能力のみを測定し、習得度を測定する下位検査は KTEA-II (Kaufman & Kaufman, 2004b) へ吸収された。一方、日本版 K-ABC は米国版 K-ABC と同様に認知処理能力と習得度を測定し、改訂版の日本版 KABC-II も認知処理能力と習得度を測定する。ここに日本版 KABC-II の特長がある。

**(2) 依拠する理論と尺度** 総計 11 の下位検査によりルリアの神経心理学理論に基づく継次処理、同時処理、計画、学習の認知処理能力を測定する。また、総計 9 の下位検査により、語彙、読み、書き、算数の習得度を測定する。標準化サンプルにより、下位検査は認知能力に関するキャッテル-ホーン-キャロル (CHC) 理論に適合することが確認された。

**(3) 尺度を構成する下位検査** 継次尺度 (短期記憶; 括弧内は CHC 理論に基づく広範的能力名) は「数唱、語の配列、手の動作」、同時尺度 (視覚処理尺度) は「顔さがし、絵の統合 (ルリア理論のみ)、近道さがし、模様の構成」、計画尺度 (流動性推理尺度) は「物語の完成、パターン推理」、学習尺度 (長期記憶と検索尺度) は、「語の学習、語の学習遅延」、語彙尺度 (結晶性能力尺度) は「表現語彙、などなど、理解語彙」、算数尺度 (量的知識尺度) は「数的推論、計算」、読み尺度・書き尺度 (読み書き尺度) は「ことばの読み、ことばの

書き、文の理解、文の構成」である。実施下位検査数は、3 歳未満が 7、3 歳と 4 歳が 10、5 歳が 12、6 歳が 16、7 歳以上が 19 である。

尺度の詳細については今後、報告する。

### 標準化に用いたサンプルと検査者

**(1) サンプル** 平成 17 年国勢調査と平成 20 年度学校基本調査報告書に基づいて、地域の人口に比例してサンプルを抽出することとした。また、特別支援学校と僻地等指定学校に在籍する児童・生徒の割合がそれぞれ約 1% と約 2% であったことから、その割合に応じて軽度障害児 (者) と僻地等指定学校に在籍する児童・生徒、16 歳以上については指定校の近隣に居住する生徒を含むこととした。本調査は 2009 年 8 月から 2010 年 10 月にかけて実施された。

総計 2587 名のサンプルのうち、東日本 (21 都道府県) が全体の 60.4%、西日本 (22 府県) が 39.6% であった。2005 年度の人口比は東日本が 59.3%、西日本が 40.7% であるから、ほぼ人口比に按分している。男子が全体の 48.9%、女子が 51.1% を占めた。軽度障害児 (者) は全体の 1.6%、僻地指定校に在籍する児童・生徒及び指定校の近隣に居住するサンプル (16 歳以上) は 2.2% を占めた。年齢を 6 ヶ月単位で区切ると、各年齢段階のサンプルは 63 名から 96 名 (平均 78.4 名、第 1 四分位数 72.0 名、第 3 四分位数 85.0 名) であった。

**(2) 検査者** 日本版 K-ABC の実施方法に習熟している者が日本版 KABC-II の実施方法について詳しい説明を受けた後、検査を実施した。

### 引用文献

- Kaufman, A. S., & Kaufman, N. L. (2004a). *Kaufman Assessment Battery for Children, Second Edition*. Circle Pines, MN: AGS Publishing.  
Kaufman, A. S., Kaufman, N. L., & 日本版 KABC-II 制作委員会 (2013). 日本版 KABC-II 丸善出版